

令和2年 10月1日発行 第7号

学校教育目標「認めあう」

●志 抱いて 学びあい ●豊かな心で 思いあい ●元気にスポーツ 鍛えあい



二中だより

松伏町立松伏第二中学校

〒343-0115

北葛飾郡松伏町上赤岩 711

TEL 992-0051

<http://matsubushi.ed.jp/matu2tyu/>

発行責任者 校長



随感随筆 体育祭を終えて

校長

第35回体育祭は、降雨による順延で、9月15日（火）に開催されました。保護者・地域の皆さまには、体育祭開催につきましてご理解を賜り、本当にありがとうございます。おかげさまで、昨年のしらさぎ祭以来となる、全校生徒が揃っての行事を執り行うことができました。この体育祭を実施したことで、生徒の力は高まり、学校全体も大きく前進することができたと実感しています。

今年の体育祭をどうするのか、判断が求められた6、7月の頃はコロナウイルス感染者がちょうど増加していましたので、とても悩みました。体育祭を中止し、学年ごとの体育的なクレーション大会を実施する案も真剣に考えました。しかし、現在の生徒たちで体育祭を1回積み重ねることが、子どもたちの幸せや成長につながると考え、開催を決断しました。感染対策として、日頃の生徒の健康観察を丁寧に言い、来賓・保護者の参観を控えていただくことで、感染リスクを下げようと考えました。8月には、保護者の皆さまから、「なぜこのような状況下で開催するのか」というお叱りの声から、「例年通りの保護者が参観できる開催を強く望みます」という要望まで、幅広いご意見が寄せられました。そこで、生徒席の間隔を大きく空ける、全校生徒にフェイスシールドを購入して配布する、競技が終わるたびにアルコール除菌液で手指を消毒する、密を避けるように各競技の参加人数・方法に変更を加える、などのさらなる感染予防策を講じました。また、体育祭を参観して子どもの成長を確認したいとの保護者の思いには、動画サイトでのライブ中継や、専門業者によるDVD制作・販売、写真撮影・販売を行うことで、どうか応えようと思いました。ライブ中継につきましては、保護者の皆さまの満足を得られるようなものでは到底なかったと思いましたが、それでも好意的なご意見も複数寄せられ、担当した職員の励みとなりました。

今年の体育祭テーマは、「目指せ頂点！雲外蒼天 五闘の炎」でした。四字熟語「雲外蒼天」の意味は、「雲を突き抜けたその先には、青空が広がっている」、転じて「努力して困難を乗り越えれば、すばらしい世界が待っている、絶望してはいけない」といったことを指して使われるそうです。とても暗示的で、コロナ禍の今の私たちにたくさんのことを想像させます。また、短いテーマの中に、頂点（ちょうてん）と蒼天（そうてん）、五闘（ごとう）と炎（ほのお）と2か所で韻が踏まれています。特に、五闘ということばは、本校の体育祭が5色のカラー対抗で行われることからの造語です。さらには、音の数が7・8・7で構成されているので、リズムよく読み上げることができ、最後の「五闘の炎」の部分は、母音がほぼ「才段」で構成されていることで、力強さをあらんだ表現となっています。文化の薫りが高いこのテーマには、深い感銘を受けました。素晴らしいこのテーマをはじめ、生徒が前面に出た、感動・挑戦のある体育祭となりました。生徒の笑顔と、3年生の頑張りが印象に残りました。

結びとなりますが、10月のしらさぎ祭も体育祭と同様の対応をとる予定です。保護者・地域の皆さまには、ご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。